

○ 各学校において定める目標は、どのように設定していけばよいか。

各学校において定める目標は、学校教育目標との関連性、学校や児童の実態などを踏まえながら、第1の目標の五つの要素をすべて含む必要があることは先に述べたとおりであるが、ここでは、具体的な設定の仕方について述べる。

【総合的な学習の時間の目標】

*○囲み数字は五つの要素の区分を示す

①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、③学び方やものの考え方を身に付け、④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、⑤自己の生き方を考えることができるようにする。

1 五つの要素のいずれかを具体化する

一般的な記述を具体的な表現にする。

(例) ①の要素を具体化した例

① 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して

⇒

自分の生活と地域の事象とのかかわりについて探究することを通して

2 五つの要素のいずれかを重点化する

五つの要素のどの要素に重点を置くかを明確に示す。

(例) ③の要素を重点化し表現した例

③学び方やものの考え方を身に付け

⇒

目的をもって調べ、関連付け、自分の考えを組み立てる力を身に付け

3 五つの要素に別の要素を付け加える

各学校において大切にしたいことで、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らしても妥当な要素を付加する。

(例) 「地域に対する親しみと愛着を高め」「ありのままの自分を受け入れ、大切にし」

「自他の思いや願いを意識し」 など

4 五つの要素の順序を入れ替えたり、複数の要素を概括的に表現したりする

(例) ③の要素を②の前に置き、②と④の二つの要素を概括的に表現した例

「①身近な自然とそこに生きる人々とのかかわりについての探究的な学習を通して、③多面的に追究する方法を身に付け、②④そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、⑤よりよい生活を創り出そうとする」

5 その他

- (1) 目標は1文で表す他に、複数の文を列挙することも考えられる。
- (2) 総合的な学習の時間で育成したいものを明確化して設定する必要がある。